



校長室 Principal's office

本校は平成 21 年 4 月県立宇土中学校が併設され、本県公立初の併設型中高一貫校として、着実に発展を続けている学校です。2020 年には学校創立百周年を迎えます。建学の精神である「質実剛健」のもと、文武両道を目指し、「創造、挑戦、感動」を教育スローガンに掲げて、「確かな学力の向上」と「人間力の育成」を柱とした本校ならではの先進的な教育活動を推進しています。

平成 24 年度には、知性と感性を備え広く世界で活躍する人材の育成を目指した「グローバルリーダー育成プロジェクト(GLP)」を始動し、平成 25 年度からは、将来の国際的な科学技術系人材育成を目指した「スーパーサイエンスハイスクール(SSH)」事業(5 年間)の指定を受け、その推進に取り組んでいます。昨年度、第Ⅱ期(H30～34 5 年間)の申請が採択され、SSH「実践型」へと取組を深化させ、教育課程の開発や課題研究、ICT をフルに活用した探究型授業および社会との共創にも積極的に取り組んでいます。平成から令和の時代へと変わりゆくなか、本校も自己変革をさらに進め、地域からの期待と信頼に応えるための学校改革に取り組んでいきます。

本校は、生徒一人一人様々な体験を通して自分の生き方を模索し、将来の自分の道を探しながら、勉強や部活動に打ち込むことのできる学校です。夢の入り口は、ここにあります。皆さんの入学をお待ちしています。

2020年4月 1 日

熊本県立宇土中学校・宇土高等学校長



H28 7月 熊本地震で5月の体育祭が中止されましたが、全国からの義援金や励ましのメッセージに対し、人文字を作成し、発信しました。この人文字は、[熊本日日新聞](#)、[KKT 熊本県民テレビ](#)、「[くまきゅー](#)」で取り上げられました。

<校長講話>今年度は以下のようなことを生徒に伝えています。

☆令和元年度 3学期終業式 2020.3.24

皆さんおはようございます。校長の福田です。新型コロナウイルスの感染防止の観点から放送での校長講話ということになりました。まずは、新型コロナウイルス感染症で亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、感染による入院や治療中の皆様方にお見舞いを申し上げますと思います。

3月に入り、今日まで感染の拡大を防ぐために全国的な休校が続いています。

世界各地で感染が拡大する新型コロナウイルスについて世界保健機関 WHO は、「新型コロナウイルスはパンデミックと言える」と述べて、世界的な大流行になっているとの認識を示しました。マスクや衛生品等が店頭からなくなり、また、各種イベントが中止されるなど、各方面で経済的に大きな打撃を受けています。そんななか、お小遣いを使って、年配者へ手作りのマスク600枚をプレゼントした中学生(山梨県)のことがテレビで紹介されていました。生まれてからためていたお小遣い全てをその費用に充てたということです。本当に感心しました。

ただ、東京オリンピックパラリンピックの開催延期が昨日から大きな話題となっており、今後どうなるのか本当に心配で不安な状況が続いています。

このようななか、3/1には高校の卒業式、3/13には中学校の卒業式が、卒業生、保護者の皆様、先生方のみの参加で行われ、高校生235名と中学生80名が無事卒業しました。在校生である皆さんとともに卒業生を送ることができず、とても残念に思います。卒業生一人一人の今後の活躍と健康を皆さんとともにお祈りしたいと思います。

さて、在校生の皆さんには次のことをお願いしたいと思います。

1つ目は<感染予防対策をしっかりやろう！>ということです。

①うがい ②手洗い ③マスクの励行を心がけてください。

また、避けたい3つの条件として

①換気の悪い密閉空間 ②密集した大人数の集会への参加

③近距離での会話

など、できるだけ控えてほしいと思います。

それから

2つ目は<メリハリのある生活をしよう！>ということです。

・3月に入り休業日となっていますが、その間の生活はどうだったでしょうか。昼夜逆転生活をしていないか心配してい

ます。

・4月からの生活に備えるための

(時間の使い方、生活のリズム、学習習慣、体調管理など)自己管理をしっかりしてほしい

・家庭での会話、お手伝いを積極的にやってほしい

・部活動については自粛をしばらく継続、文科省から指針が出るのを待つことになる

※大事なことは、周りに流されず、冷静さを保ち、集団のパニックに巻き込まれないこと。そして予防策を講じつつ、普段通りの生活を続けること。バランスのとれた食事、適度な運動、休養・睡眠などで抵抗力を高めておくことを心がけよう。また、この期間を利用して多くの本も読んでほしいと思います。

最後に<お知らせ>が2つあります。

①昇降口の靴箱の塗装について

先生方のご尽力により綺麗になりました。ありがとうございました

(古いけど大切にしてほしいです)

②本校創立百周年を記念して「イワンの馬鹿」復刻版を作りました。

この本は、トルストイの翻訳家であり、人吉で自給自足の生活をされていた北御門二郎さんと本校第29回卒業生(現在61歳で当時高校2年生)の皆さんとの合作本です。詳しくは2ページに書きましたので後で見てください。

先輩方からのプレゼントです。是非読んでください。

それでは、明日から新学期にむけ、準備を怠らず、新たな自分づくりにチャレンジしましょう。4月から、明るく笑顔あふれる学校再開となることを期待します。これで最後の校長講話を終わります。

☆令和元年度 中学校卒業式 2020.3.13

式辞

暖かな春の日差しに、校庭の桜のつぼみもふくらみはじめ、春の息吹が感じられる今日(きょう)の佳き日に、

多数の保護者の皆様をお迎えして、熊本県立宇土中学校第9回卒業証書授与式を 厳粛な中に挙行できますことは、卒業生はもとより在校生、教職員にとりまして大きな喜びであり、心から感謝申し上げます。

ただ今、卒業証書を授与しました八十名の卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。

本校は中高一貫教育校ではありますが、義務教育九年間を修了する大きな節目を迎え、感動もひとしおだと思います。この感動は、皆さんが宇土中学校の生徒として、「質実剛健」の校訓のもと、勉学や部活動など、すべての活動に日々向上心をもって、ひたむきに取り組んだ結果得られたものです。

さて、令和という新たな時代を迎えましたが、平成の30年間は、災害の時代と言われ、日本各地で地震や豪雨災害等が起こり、その度に大きな被害を受けてきました。皆さんも入学前に、熊本地震という未曾有の自然災害に遭いました。自宅が倒壊し、仮設住宅等での生活を余儀なくされ、精神的に不安定な時期を過ごした人もいたかと思います。

そんななか、本校に入学してからの3年間を振り返ると、皆さんは勉学に励んだことは勿論、部活動や生徒会活動、そして、「宇土未来探究講座」、いわゆる「Q講座」をはじめとする体験活動では、地元の里山である白山や菊池での農業体験、そして、御所浦での無人島サバイバル生活体験や英語合宿など、宇土中ならではの体験学習に、常に前向きに、そして積極的に取り組んでくれました。これらの体験を通じて、地域の方々とふれ合い、交流を深めるとともに、関係スタッフの皆様からの多くのご教示をいただくなかで、社会性や自律心及び責任感を培うことができました。

体育祭では、十分な練習時間がないなかで、最上級生として全体をリードし、中学生らしい爽やかな演技を披露してくれました。文化祭では、合唱や創作劇をみんなで協力して見事に仕上げ、大いに盛り上げてくれました。また、1月のスーパーサイエンスハイスクール研究成果発表会では、高校生に交じて3年生代表2名が研究成果を堂々と発表してくれました。

美術の授業では、紙による橋造り、ペーパーブリッジコンテストに挑戦しました。美術と工学という教科横断的な授業の中で、班員相互の協力とアイデアを結集しながら、制作の意図を紹介するプレゼンテーションとともに耐久コンテストまで、感動的な授業を披露してくれました。

この三年間の皆さんの成長には目を見張るものがあり、中高一貫教育校という環境の中で、時には高校生からのアドバイスを受けながら、また、時には中学生全体のまとめ役として、それぞれの場面で人間力を発揮してくれました。

宇土中学校卒業という人生の節目に当たり、皆さんに三つのことを伝え、餞の言葉とします。

一つ目は「志高くあれ」ということです。まず、自分の将来を見据えて、「これからどのように生きていくのか」、「そのために何をすべきか」ということを十分考えた自らの「志」を立てることが必要です。さらに、その志は、高く、確固たるものにしてほしい。そして、その志のもとに、根気よくコツコツと日々の努力を積み重ねてください。

昨年、6月の創立記念講演で本校においでいただいた植松努さんを覚えていますか。

『どうせ無理』という簡単な言葉で、人は努力をしなくなり、そして人をダメにする。

『どうせ無理』をなくすと世界が変わる。そんな言葉に出会った時には『だったら、こうしてみたら』という言葉で返そう」という話をされました。宇宙ロケットの開発を夢見てそれを実践している植松さんのように、夢を諦めず、自己の可能性を信じて、自らの志の実現に向けて、困難にも敢然と立ち向かう「あれこれ工夫する」若者であってほしいと思います。

二つ目は「**一隅を照らす人になれ**」ということです。

昨年十二月、アフガニスタンで凶弾に倒れた福岡市出身の医師で、国際 NGO「ペシャワール会」現地代表として、荒廃したアフガニスタンの復興支援に尽くした中村哲(てつ)さんを知っていますか。先生が好んで使われたのがこの「一隅を照らす」という言葉です。これは、天台宗の開祖・最澄(さいちよう)が残した言葉であり、正確には、「一隅を照らす、これ則ち国宝なり」というものです。一隅とは、片すみという意味。「片すみの誰も注目しないような物事に、ちゃんと取り組む人こそ尊い人だ」という意味です。

先生は、アフガニスタンという地球の「一隅」で、現地の人々とともに、一六〇〇本の井戸を掘り、全長約二七 km の用水路を通して、砂漠化しつつあった一万六千五百ヘクタールの土地を潤し、その農地を耕して日々の食料を確保することを通じて、人びとの「いのち」を守り、生活を支えられました。先生の三十数年にわたる人々の生活を照らし続けた地道な活動こそ、人として尊い行為だと思えます。

皆さんも、たとえ小さなことでも自分にできることをしっかりと社会に返していくことで、地域を支え、地域に貢献できる、そんな大人になってください。

三つ目は「**一步踏み出す勇気を持つ**」ということです。

人は、物事が上手くいかなくなると環境のせいになったり、誰かのせいにしたくなります。しかし、その状況を変えるためには、自ら一步踏み出す勇気が必要です。

人は生まれながらに無限に成長する可能性を持っています。それを誰かが止めてしまったり、自分で諦めたりして可能性を閉じてしまうと成長できなくなってしまう。そこを変えられるのは、自らの勇気ではないでしょうか。

周りの環境は自分の力で少しずつ変えることができるし、無限に成長していくこともできます。それは年齢や性別に関係なく、誰にでも与えられている権利なのです。令和という新たな時代を逞しく生き抜くためにも、何事にも積極的に行動していく「求めて学ぶ姿勢」が大切です。自分をつくるのは自分自身です。悩むことも多い時期だと思いますが、自分の可能性を信じて、勇気をもって一步を踏み出し、新たな自分にチャレンジしてください。

ここで、保護者の皆様一言お祝いとお礼を申し上げます。お子様のご卒業、誠におめでとうございます。心からお慶び申し上げます。十五年間、愛情一杯に育ててこられたお子様の成長を前にして、喜びもひとしおのことと存じます。お子様をお預かりして以来、私ども最善の努力をして教育実践に携わって参りましたが、まだまだ力が及ばないところもございました。これからは、中高一貫教育の次なるステージである宇土高等学校で、それぞれの進路希望に向かって、一人一人の前途を切り拓いてくれるものと期待しております。これまでの三年間、本校教育の推進に、ご理解とご支援、ご協力を賜りましたことに対し厚くお礼申し上げます。

さて、卒業生の皆さん、いよいよ宇土中学校を巣立つときがきました。これから高校生としての生活が始まります。今年は、東京オリンピック・パラリンピックが開催される記念の年ですが、宇土高等学校は創立百周年を迎えます。長い歴史と伝統をもつ本校の生徒として、「質実剛健」の校訓のもと、雄々しく、逞しく、社会を生き抜く若人たらんことを期待するとともに、卒業生一人一人の前途に、幸多かれと祈り、式辞とします。

令和二年三月十三日

熊本県立宇土中学校長 福田 朋昭

☆令和元年度 高校卒業式 2020.3.1

式辞

校庭の木々の芽吹きにも春の訪れが感じられる今日(きょう)の佳き日に、多数の保護者の皆様をお迎えして、熊本県立宇土高等学校第七十二回卒業証書授与式を、厳粛な中に挙行できますことは、卒業生はもとより教職員にとりまして大きな喜びであります。保護者の皆様には、これまで本校の教育に深いご理解と温かいご支援をいただき、心から感謝申し上げます。

ただ今、卒業証書を授与しました二百三十五名の卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。めでたく卒業の日を迎えることができましたことは、皆さん一人一人が宇土高生として、建学の精神「質実剛健」の下、たゆまぬ努力を積み重ねてきた結果であることは言うまでもありません。その努力に対し、心から敬意を表したいと思います。

皆さんは、高校入学前に、熊本地震という未曾有の自然災害に遭いました。自宅が倒壊し、仮設住宅やみなし仮設での生活を余儀なくされ、精神的に不安定な時期を経験した人もいたかと思えます。

そういう思いを抱えながら本校に入学した皆さんですが、日々の勉強に励むとともに、部活動に汗を流し、生徒会活動やホームルーム活動では、自らの役割を果たしながら、宇土高生として着実に成長してきたものと思えます。学校行事に積極的に取り組む真摯な姿や笑顔を多くの場面で見ることができました。

文部科学省指定のスーパーサイエンスハイスクール事業や本校独自のグローバルリーダー育成プロジェクト事業を通じて、国内外での研究発表や研修を数多く重ねてきました。特に、SSHの課題研究においては、未知なるものへの好奇心とともに、探究の過程を学び、課題解決能力や論理的思考力を育んできました。これらの取組は、皆さんの将来に必ずや活かされるものと信じています。

部活動でも、ヨットや陸上、スキーでのインターハイや国体への出場、全国高校総合文化祭出場など、例年以上の活躍を見せてくれました。

今年度の体育祭では、令和元年という新たな時代にふさわしい、「紫(し)電(でん)一閃(いつせん)～進め、次の時代へ～」のテーマのもと、各団一丸となって、澁刺とした、そして、躍動する、力強い姿を見せ、伝統の「質実剛健」の気風を強く印象付けてくれました。

また、地域の小学生に対する学習支援や施設訪問、清掃活動、各種イベントでの演奏活動、また、同じ被災地である福島県との交流事業にも参加し、研修や避難所運営等に取り組みました。あらゆる分野で本当によく頑張ってくれたことに感謝したいと思います。

さて、近年、SDGsという言葉をよく聞きますが、これは、「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」の略称であり、二〇一五年に国連で決められた、国際社会共通の目標です。SDGsには、十七の目標とそれらを達成するために必要な一六九の具体的な目標が設定されています。貧困や気候変動、エネルギー、人権問題など、我々を取り巻く環境は、複雑に変化しており、国や大企業だけではなく、個人としても多くの課題に前向きに、継続的に取り組む必要があります。国際社会が複雑に絡み合う変化の激しい時代だからこそ、私たちは、これらの課題を前向きに受け止め、社会や人生を「人間ならではの感性」を働かせて、より豊かで暮らしやすいものにしていくことが大切です。

このような社会に巣立ちゆく皆さんに、二つの言葉を送り、餞(はなむけ)とします。

一つ目は、高校3年間の学年目標であった「原点回帰」です。

原点回帰とは「初心に立ち返ること。基本に立ち戻ること。物事の出発点に戻る」という意味を持つ言葉です。これによって、自分が物事を始めたばかりで、何も知らなかったときのことを思い出させてくれます。人は、ものを知ることで自信が付き、堂々とした態度で仕事や生活を送れるようになります。また、初心を取り戻すことで、できなかったころ感じていた悔しきや辛さがわかるようになり、人の失敗に対して優しい態度で接することができるようになります。

この原点を大切に守っていくことが原点回帰であり、時代の変遷の中であっても不易と流行のように、変わるものと変わらないものを回帰しながら歩いていくことができます。人生には様々な困難が付きまといまいます。仕事で行き詰ったときや何が答えなのか分からなくなったとき、ふと立ち止まって、原点に戻ることも時には必要なのではないのでしょうか。

二つ目は「一隅を照らす人になれ」ということです。

昨年十二月、アフガニスタンで凶弾に倒れた福岡市出身の医師で、国際 NGO「ペシャワール会」現地代表として、荒廃したアフガニスタンとパキスタンで市民とともに復興支援に尽くした中村哲(てつ)さんを知っていますか。先生が好んで使われたのがこの「一隅を照らす」という言葉です。これは、天台宗の開祖・最澄(さいちょう)が残した言葉であり、正確には、「一隅を照らす、これ則ち国宝なり」というものです。一隅とは、片すみという意味。「片すみの誰も注目しないような物事に、ちゃんと取り組む人こそ尊い人だ」という意味です。

先生は、アフガニスタンという地球の「一隅」で、現地の人々とともに、一六〇〇本の井戸を掘り、全長約二七 km の用水路を通して、砂漠化しつつあった一万六千五百ヘクタールの土地を潤し、その農地を耕して日々の食料を確保することを通じて、人びとの「いのち」を守り、生活を支えられました。先生の三十数年にわたる人々の生活を照らし続けた地道な活動こそ、人として尊い行為だと思います。

皆さんも、たとえ小さなことでも自分にできることをしっかりと社会に返していくことで、地域を支え、地域に貢献できる、そんな社会人になってください。

終わりにになりましたが、保護者の皆様方に改めてお祝いとお礼を申し上げます。本日はお子様のご卒業、誠におめでとうございます。お子様の健やかな成長を願って支えてこられた皆様には、さぞや苦労も多かったのではないのでしょうか。今日(きょう)の佳き日を迎え、立派に成長されたお子様の姿に感慨もひとしおのことと存じます。教職員一同、心よりお慶びを申し上げます。今日(こんにち)まで本校にお寄せいただきましたご支援、ご協力に深く感謝を申し上げます。

卒業生の皆さん、皆さんは今日(きょう)この宇土高校を卒業します。これからは、宇土高校が皆さんの母校です。同窓会の一員として、母校の発展を見守り、応援してください。

いよいよ今年、宇土高校は学校創立百周年という大きな節目を迎えます。十一月七日には、本校にて記念式典を行う予定です。二〇二〇年は、東京オリンピックパラリンピックが開催される記念の年でもあり、記念講演には、本校第31回卒業生で、ソウルオリンピック柔道 60kg 級銅メダリスト、日体大教授の山本洋祐さんにおいていただく予定です。時間があれば是非見にきてください。

「理想の海に舟出する、若人なれに光あれ」

後輩諸君、生まれ育ったふるさと、熊本への誇りと感謝の気持ちを忘れず、正々堂々と生き抜いてください。卒業生一人一人の前途に、幸多かれと祈り、式辞とします。

令和二年三月一日

熊本県立宇土高等学校長 福田 朋昭

☆令和元年度 3学期始業式 2020.1.8

皆さん、おはようございます。併せて、明けましておめでとうございます。正月3が日は天候にも恵まれ、新たな気持ちでこの1年のスタートが切れたのではないかと思います。

令和になって初めての新年であり、2020 東京オリンピック・パラリンピックという記念の年でもあります。また、本校にとっても、今年は高校創立百周年を迎える記念の年でもあります、今年行われる学校行事には、すべて百周年記念○○という冠がつくことになることでしょう。

そういう意味で、私が年頭に当たって皆さんに示したい今年の漢字は「百」であります。

一世紀にわたり連綿と続く本校の歴史のなかで、今年は大きな節目となる年であり、在籍する皆さんや勤務する我々教職員にとっても創立百周年記念事業に向けた色んな取組に対して、学校一丸となって周到な計画のもと、滞りなく準備を進めていくことが大切だと考えます。

生徒の皆さんのご協力、並びに、地域社会への広報活動をよろしくお願いします。

100年と言えば、お正月の風物詩である箱根駅伝も1920年第1回大会が始まって丁度100年ということが紹介されていました。創設者は、マラソンの普及と女子スポーツ振興に偉大な足跡を残し、「日本マラソンの父」とも呼ばれた本県玉名出身の「いだてんこと」金栗四三です。熊本が生んだ偉大な方です。

さて、1年の計は元旦にあるとはよく言われますが、毎年紹介しているように、江戸時代の儒学者 安井息軒は「一日の計は朝にあり、1年の計は春にあり、そして、一生の計は少壮にあり」と説いています。少壮とは若くて元気のいい頃を指します。まさに皆さんのことです。

何を志すにしても、まずその初め、最初が肝心であり、人生においては、特に若い今の時期が大事ということです。

目標を見つけ、それに向かって努力をし、進路実現を果たしてほしいと思います。

高校3年生諸君、来週末にはよいよ大学入試センター試験ですね。受験者は約56万人です。(本校生は211名)

全国の国公立大学171校のすべて、私立大学が約500校、短期大学約150校が参加しています。期待感と不安感でいっぱいだと思いますが、是非、3年間の努力の成果を発揮してください。ただ、「百里を行く者は、九十里を半ばとす」(口語訳も示す)ということわざにもあるように、あともう少しではなく、まだまだという緊張感をもって諦めず粘ってほしい。3年生の健闘を祈ります。後輩諸君は、それぞれ一学年ずつ上がり、先輩になります。今週末には中学入試、1月30日にはSSHの研究成果発表会、2月には学年末考査、3月になると、中高の卒業式、高校入試と、対外的にも大きな行事が続きます。3学期は、あっという間に過ぎてしまいそうですね。

ただ、この学期から新年度までをどう過ごすかで、その後の進路実現に大きな違いが出てくるのではないのでしょうか。

最後に、もう一つ「感謝」することの大切さをお話したいと思います。高校3年生の中には、既に推薦入試等で合格している人がいますが、合格した生徒が校長室に来て、合格報告や推薦のお礼を言いに来ています。中

には、不合格にもかかわらず、推薦のお礼を言いに来た人もいます。

少し前の話になりますが、台風が来た翌日、朝早く学校にきて、一人で散らかった校内を掃除している生徒がいたので、どうしたの？て尋ねたら、「台風が来て、たぶんいろんな物が散らかってるだろうから片付けに来ました」と答えました。驚きましたね。

また、私が渡り廊下で掃除していると、通りがかりの生徒が「ありがとうございます」と声をかけてくれました。

それぞれ皆さんの先輩ですが、こういった行動や言動から私も感謝する気持ちの大切さを学びましたし、その日はとても清々しい一日となりました。

親や友人、先生方など、支えてくれている周りの人たちへの感謝の気持ちを口にできること、感謝を行動で示す事はとても素晴らしい事だと思います。物を大切にすることも相手を思いやる心も大切です。

皆さん一人一人の感謝の行動で、宇土中・宇土高が、明るく、元気で、活気ある学校になり、地域から選ばれ、信頼される学校になればと切に願っています。

3学期、皆さんの「感謝の行動」に期待します。今年を素晴らしい年にしましょう。終わります。

☆令和元年度 2学期終業式 2019.12.20

1 はじめに(2学期の成果)

○みなさん、おはようございます。

長い2学期でしたが、どうでしたか、充実度はいくつくらいでしょうか。(満点を100として、いくつくらいか振り返ってみてください)

先ほど、表彰を行ったように部活動等で多くの方が活躍してくれました。素晴らしいことだと思います。

表彰では紹介できませんでしたが、

○生徒の活動について

①ボランティア 熊本市科学展、秋祭り等(太鼓部)、交通指導(駅前で1hにわたり交通指導:感心の電話あり)

②SSH 関係 関東研修に60名、熊大での国際先端科学技術学生会議(ICAST)名、KHS 約80名、台湾研修に10名(SS6名 GS4名)の参加

jsec 全国大会3名 アプリアワードグランプリ受賞(物理班)

③部活動 新人戦等(一部のみ紹介する)

中学男子硬式テニス 県大会団体3位(九州大会3月)

美術展最優秀賞

○9月には文化祭で盛り上がり、11月の晴天に恵まれた強歩会、おいしい豚汁をいただきました。

本当にあつという間に過ぎた2学期でした。創造と挑戦、それによって感動できる多くの体験ができたのではないのでしょうか。皆さんの努力と協力に感謝したいと思います。ありがとうございました。

2 本物を見て体験することの大切さ

「海外(本物)を見る、知る、省みる」

→日本、そして日本人の素晴らしさに改めて気づく旅であった(日本回帰の旅となった)

さて、私は、先月11/1~5 日中平和友好条約40周年記念(1978年8/12 福田内閣 園田直外務大臣)ということで、日中交流センターを通じて、中国政府から招待を受け、中国上海市に行く機会を得ました。蘇州で2校、上海では1校、学校を2校を視察しました。(宇土高校に勤務しているお陰です)

その様子を少し映像で見てもらいます。

○中高一貫校を2校見学 英語の授業の映像

①蘇州外国語学校、復旦大学附属中学

②上海市工商外国語学校(専門高校)アニメ声優、中国文化

幼稚園から小・中・高校まで在籍者数は3000名あまり、各課程で試験があり、合格しなければ他の学校へ出されるということでした。中学2年生の英語の授業を参観しましたが、生徒諸君が非常に積極的に授業に参加している姿がありました。皆さんも日々の授業に前向きかつ積極的に臨み、夢をかなえてほしい。小さな積み重ねとそれの継続だけです。

今学期も多くの場面で生徒諸君が輝く場面を作ってください、いろんな経験を積んでもらいました。今後も生徒諸君を真ん中に、無限の可能性をもつ皆さんの力を引き出していけたらと考えています。是非、宇土中高での活動を通じて、将来に向けての何かを見つけてもらえたらと思います。(12/17~19 台湾研修も紹介)

3 世界の人々のために、社会のために という気持ちをもつことの大切さ、その心を受け継ごう!

<明るいニュース>

今年は、リチウム電池の実用化に功績を挙げた旭化成名誉フェローの吉野彰さんがノーベル化学賞を受賞するという明るいニュースがありました。リチウムイオン電池と人工知能を組み合わせれば、持続可能な社会が実現できる、それを目指したいというものです。先生が影響を受けたのは、9歳のとき読んだ電磁気学の父ファラデーの書いた「ろうそくの科学」(1861年)です。読んでみませんか。

好きな言葉は「挑戦」 電池の開発の苦悩 →「悪魔の川」を渡る思い

正極 コバルト酸リチウム LiCoO₂ 負極:炭素

一資料一 持続可能な社会とは

地球環境や自然環境が適切に保全され、将来の世代が必要とするものを損なうことなく、現在の世代の要求を満たすような開発が行われる社会

「SDG'S」(「持続可能な開発目標」への関心の高まり)

企業評価の共通言語がSDG'S(エスディーゼーズ)

Sustainable Development Goal

○これからの企業の長期的な成長のためには(企業の価値を測る尺度)

「ESG」Environment Social Governance 3つの要素への配慮が重要

環境 社会 企業統治 という考え

<悲しいニュース>

中村哲医師凶弾に倒れる! 12/4

アフガニスタンにて国際的なボランティア活動を展開していたNGO「ペシャワール会」現地代表の中村さんが、銃撃され亡くなられた。医師でありながら、水があれば多くの病氣と帰還難民問題を解決できるとして総延長25kmを超える用水路を建設し、約10万人の農民の生活を支える活動をアフガニスタンで展開した。

＜葬儀での息子さんの言葉＞のなかで

中村さんを守るために亡くなられた方々への追悼の気持ちを伝えるとともに、「父から学んだことは、家族は勿論人の思いを大切にすること、物事において本当に必要なことを見極めること、そして必要なことは一生懸命行うということです。」と述べられています。

4 最後に

○来年は災いのない年になればと願っています。今年を締めくくる漢字はやはり新しい元号令和の「令」でしたね。

令の意味 立派な、清らかで美しい、おめでたい、喜ばしい

新たな時代への希望や願いが込められているように感じます。また、流行語大賞は「ワンチーム」でした。多様化、国際化が進む日本の 今後のあり方を示唆するものかもしれない。ラグビーには、One for all All for one (一人がみんなのために、みんなは一つの目的のために)盛り上がりましたワールドカップラグビー

来年の干支は「鼠(ねずみ)」です。素早く、良いスタートを切ってほしいものです。日ごろは、なかなか家の手伝いもできないと思いますので、年末には掃除など家の手伝いもしてください。保護者の皆さんにもこの2学期、大変お世話になりましたと伝えてもらえたらと思います。3学期、元気なみなさんに会えることを楽しみにしています。

以上です。

☆令和元年度 2 学期始業式 2019.8.28

その1 はじめに

みなさんおはようございます。今日から2学期がスタートします。暑さを考慮して始業式の時間を変更しましたが、少しずつ秋の気配が感じられるようになってきたのではと期待していますがどうでしょうか。

皆さんはどんな夏休みを過ごしましたか。計画的に過ごせた人もいるでしょう、何となく過ぎた人、充実した日々を過ごした人、いろいろあるのではないのでしょうか。

△私は、県の高校地学部会という勉強会があって、会長として勉強会に参加しているのですが、今年は阿蘇で、県内の高校生(中学生2)とともに、地質調査、水質調査、地震の跡地などの視察を行いました。阿蘇は噴火警報レベル2で麓の町は大変！

○②夏休みの頑張りを紹介(多くの生徒が活躍する姿)一部抜粋

- ・SSH 研究成果発表会、全国高校総体、高校総合文化祭(朗読、物理班)、神戸でのSSH生徒発表会(4名)
- ・県内先端企業訪問(1年)、オープンキャンパス(2年)小学生に対する学びの部屋、
- ・中学校では中3無人島サバイバル、科学の甲子園ジュニア(3位)など、本当に多くの場面で活躍しています。

2学期も、10月に台湾での発表に10名(文系・理系)派遣予定です。11月には(熊本市)での第14回国際先端技術学生会議(ICAST)に2名、こちらは大学 生の発表会に熊大の学生とともに参加するものです。県の生徒理科研究発表会、高校 1年 SS 班の筑波大学での研修あり。国体予選(女子ハンド、アーチェリー、女子ラグビーにも県選抜メンバーとして選出)昨年はフェンシング、スキーの選手もいました。いろんなスポーツや文科

系クラブでも、個人の参加資格はあります。囲碁や将棋もです。かつて囲碁は全国で団体女子優勝(1991年)もしています。勉強以外でも輝く場面はいくつもあるので、いい面を延ばしてほしい。

その2 日本電産の会長永守重信氏の紹介

さて、先週京都で開催された全国PTA大会に保護者の皆さん5名と参加してきました。その中で日本電産の会長永守重信氏の講演がありました。全国から約1万人の方々が参加されており、一つの会場では入らないので、別会場でモニターを見てお話を伺いました。

永松氏は京都の貧しい農家に生まれた。家の手伝いばかりしていたので、勉強らしい勉強はしなかったが、成績は良かった。中学校の先生が、工業高校ぐらい行かせてやってくれ、と家の者に言ってくれ通うことができた。そこでも勉強ができたので、担任の先生が学費のかからない職業訓練大学校を教えてくれた。特待生で入学し4年間、1円の金も使わず卒業した。就職した当時から独立心が強かったので当時の金で2000万円貯めて35歳で会社を興そうと考えた。人から服をもらったり、昼はいつもカレーライスだったり切り詰めた生活を続け、目標より早く28歳の時に、自宅の納屋を改造して3人で日本電産を創業した。以来40年余り、必死で働いた。いまでは世界43カ国、グループ300社超、従業員約14万人を抱える売上高1兆5千億円のモーター製造の世界最大企業に成長させた。

そんな日本電産でこれまで国内だけで約7800人の大卒者を採用してきた。その個々の能力を分析してみると、出身大学の偏差値やブランドなど仕事をするうえで何の関係もないことがわかった。

今の大学教育は間違っている。もっと社会に出たときに役立つことを教えるべきで、そんな実践的な教育をする大学を創ろうと決意し、京都学園大学の理事長に就任し、名前も2019年4月～京都先端科学大学に名称を変え、大学経営に乗り出した人物。

一資料一

○2014年1月、日本経済新聞社が実施した「平成の名経営者ランキング」において 第1位となる。

『日経ビジネス』誌において、発表された「社長が選ぶベスト社長」ランキングにおいて第1位を獲得。2006年米ハロンズ誌では世界の優秀なCEOベスト30にも選出

2014年12月、永守財団を設立する。

2018年3月、京都学園大学理事長に就任。寄付100億円

2018年8月、郷里の向日市へ市民会館を新築して寄付することを表明。名称は「永守重信市民会館」で、工費は約32億円。

京都府立医科大学のがん治療施設に70億円寄付

2030年 売上高10兆円と世界の大学ランキング200位内を目指す。

東大、京大の次

「情熱、熱意、執念」「知的ハードワーキング」「すぐやる、必ずやる、できるまでやる」の三つを経営哲学としている。英語が大切(ALT2名 英語フロンティアスクール県指定)

その3 二学期に向けて

①凡事徹底(挨拶、時間厳守、掃除の徹底)

学校(学ぶところ)→環境づくり 学問(問いを学ぶ)→授業の活性化

②自分を見つめる(将来像を描く)◎高1理系・文系の選択しかり

③今後の活躍も場をつくっていく、求めて学ぼう!

☆最後に、

2学期は1年間で最も長い学期。気候もよくなり、実りの秋、文化芸術の秋です。

高校3年生は、進路実現に向けた勝負の時であり、中3生は高校に向けての中学仕上げの時です。中2、高2生は、それぞれ中学校、高校の中核としての自覚をもってほしい。中1、高1生は先輩の姿を見てひたすら努力をしてください。みんなが輝く2学期に、充実の秋にしましょう。”質実剛健”、宇土中高生の活躍に期待しています。

以上です。

☆令和元年度1学期終業式 2019.7.19

みなさん、おはようございます。

はじめに

その1 1学期の諸活動の総括

さて、今日は一学期終業式です。学期を締めくくる日でもあります。先ほど多くの生徒の皆さんに表彰状を渡しました。それぞれ日々の努力の積み重ねの結果だと感じています。特に

①各種大会に臨む中高生！

☆高校

<総体関係>

陸上400mH(深澤君)、ヨット420級(6名)

<総文関係他>

科学部物理班4名、放送(切通君)

NHK全国高校放送コンクール

(朗読部門:緒方さん)、(アナウンス部門:切通君)

<SSH生徒研究発表会:神戸市>(生物班4名)

☆中学

<県大会> 剣道部、テニスぶ、水泳個人

<全国大会> テコンドー2名

<その他>

・ライオンズクラブ海外派遣事業2年東君 台湾(1カ月)

・県グローバルジュニアドリーム事業2名 台湾(8/2~6)

それぞれ、貴重な経験であり、学びの多いものにするには事前の準備、当日の行動が大切！

②また、SSH関係では

●高校3年 SSH 課題研究成果発表会(7/25日開催予定)

地域の中学生に是非とも見学してほしいので声かけを！

さて、

その2 輝く宇土高校(旧制宇土中)について

はやぶさ2紹介

「世界初」「2億5千万 km」「登録証」 →「はやぶさ2」

7月11日、宇宙航空研究開発機構 JAXA は探査機はやぶさ2が小惑星りゅうぐうの表面に2回目の着陸を果たし、世界初となる地下の岩石破片の採取に成功したとみられると発表しました。このはやぶさ2が打ち上げられる際に、自分の名前やメッセージと一緒に載せてくれるという企画がありましたが、あれは、そのとき応募した平成25年度当時の本校中高生 951 名の名前とメッセージが入ったターゲットマーカーとカプセルが搭載されているということを証明する JAXA からいただいた登録証です。

はやぶさ2は、目的地である小惑星「りゅうぐう」に到着し、太陽系の起源や進化、生命の原材料物質を解明するため、小惑星からの砂を地球に持ち帰るサンプルリターン・ミッションに見事に成功しました。目印となるターゲットマーカーを打ち込み、それを目印に着陸、地表内部の岩石の採取に成功したのです。この後、本校が 100 周年を迎える 2020 年 11 月か 12 月に帰還する予定になっています。今後も注目を！

そういえば、宇土高校の前身 宇土中初代校長 生田徳太郎先生

(大正9年～昭和2年)は、 (佐賀県唐津中から招かれた)

「宇中は宇土の中学であってはならない。宇宙、所謂天下の宇中でなければならぬ」という遠大な考えを示された。つまり「宇中は宇宙の宇中なり」→詳細は同窓会報「鶴城」にありますので見てください。

その2 活躍する宇土校生(成松さん、北園さん)

「世界へ」向かう成松さん 「光り輝く」北園さん「可能性は無限大」です。

「どうせダメ」ではなく、「まずはやってみること、物事に対する意欲が大切だと！」「思いは招く(植松努氏)」→「主体性」です。「5分前行動」「積小為大」が大切だと思います！

最後に、

※スタディサポートでは「生活改善」という生徒の多さに驚く。

○計画を立て、充実の夏休みにしてほしい。21日(日曜日)、18歳の諸君は、選挙にも行こう！ 皆さんの将来は皆さんが決めよう！

○気象異常による猛暑が続いている、熱中症に注意を！

雷注意！ 自分の身は自分で守ること！

○2学期、元気に登校してほしい！ (終わり)

☆平成31年度 1学期始業式 2019.4.8

「三寒四温」という、寒暖の差が激しく、体調を崩しやすい日々が続いています。校庭の草木も一斉に芽吹き、季節の変化を感じる今日この頃です。

ただいま紹介のあった新任の先生方、そして、本日の午後に中学校 80 名、高校に入学してくる1年生 235 名を迎え、平成31年度、そして5/1から新たな元号「令和元年」がスタートします。「令和」には、人々が美しく心を寄せ合う中で、文化が生まれ育つという意味が込められているということですが、どんな時代になるのか楽しみで

す。

皆さんも心新たにして、始業式に臨んでいることと思います。最上級生としての3年生、進路を決める大切な一年になります。中堅としての2年生、新入生が入り先輩という立場になります。ともに本校を支えてくれる柱として期待をしています。

本校は、「質実剛健」の建学の精神のもと、文武両道を追求し、たくましく、生きる力を備えた将来のリーダーを育成するという大きな目標を掲げています。そのためには、まず、毎日の生活で自分がやるべきことに真摯に取り組み、根気よく継続することが大切です。

小事(しょうじ)をおろそかにして、大事(だいじ)をなすことはできません。日常生活のなかで、特に基本を大切に、地道な努力を積み重ねる習慣を身につけてください。それが「積小為大」であり、何度となく繰り返しお話ししてきました。

挨拶の励行、掃除の徹底、時間厳守といったことが、当たり前のようにできること、成績という「見える学力」も大切ではありますが、自らの行動を律する力、一日や一週間の自分の基本的な生活習慣をいかに確立するか、周囲とのコミュニケーションや協調性など、「見えない学力」は皆さんを成長させる基盤であり、大切にしてほしいことです。

本日は、年度当初にあたり、江戸時代末期の福井藩士 橋本左内の言葉を紹介します。

「橋本左内」が著した「啓発録」の中での、五項目の誓い
「稚心を去る」

目先の遊びなどの楽しいことや怠惰な心、親への甘えは、学門の上達を妨げ、武士として気概を持ってないので、捨て去るべきである。というもの

この他

「気を振るう」 負けないように強くなろう

「志を立つ」 目標に向かって頑張ろう

「学に勉む」 しっかり勉強して心を鍛えよう

「朋友を択ぶ」 自分にとって良い友だちをもとう という5項目を啓発録にまとめました。

これを15歳にして、自らの大志を忘れないように残し、それを若い武士たちに向けて発信した書物が「啓発録」である。吉田松陰や西郷隆盛、横井小楠とも交友があった左内ですが、安政の大獄によって25歳にて処刑されています。ただ、彼の精神は福井県のSSH校で、創立162年の伝統校、福井県立藤島高等学校に受け継がれています。

さて、熊本地震から3年が過ぎました。記憶は少しずつ薄れますが、日本全体が地震列島であることに変わりはありません。今年も突風やゲリラ豪雨など異常気象が予想されます。日ごろから危機管理意識をもち、今の生活ができることに感謝しながら、一日一日を大切に、自分の目標をしっかりと定めて、今日からの学校生活に精一杯取り組んでほしいと思います。

これまでと同様に、「創造、挑戦、感動」をキーワードに、宇土中、宇土高校全員が力を合わせ、進路や部活動などで、それぞれの目標が達成される一年となり、また、2020年の創立百周年に向け、本校の更なる発展と躍進を祈念し、始業式の式辞とします。

☆平成31年度 入学式 2019.4.8

式辞

色鮮やかな花々が美しく咲きほこり、春の躍動の中に、万物の新たな息吹を感じる今日の佳き日に、宇土市副市長 谷崎 淳一様、同窓会会長 大塚 正法様をはじめ、多くのご来賓の皆様のご臨席を賜り、また、保護者の方のご参列を得まして、平成31年度、熊本県立宇土中学校、宇土高等学校、合同入学式を挙行できますことは、このうえない喜びであり、心から感謝申し上げます。

ただ今、入学を許可しました中学生80名、高校生235名の新入生の皆さん、入学おめでとう。厳しい入学試験を見事突破され、晴れて本校への入学を果たされた皆さんを教職員、在校生一同、心から祝福し、歓迎します。

今、皆さんは入学の喜びとともに、新しく始まる学校生活への大きな期待に胸をふくらませていることと思います。今の気持ちを大切に、志を高く掲げ、それぞれの夢の実現に向けて、これからの学校生活を充実させてください。

本校は、大正9年、旧制宇土中学校として設立されました。学制改革により宇土高等学校と改称し、創立から99年を数え、これまでに2万7千人を超える有為な人材を輩出してきた伝統校です。また、平成21年4月に、県立宇土中学校を開校し、本県初の併設型中高一貫教育校として、それぞれの夢実現に向けて、勉学に励み、自らの未来を切り拓いていくことのできる生徒の育成をめざして、特色ある教育活動を展開しているところです。昨年の10月には、中高一貫教育校として十周年の記念式典を終え、また、来年2020年、東京オリンピックが開催される年の11月には、宇土高校創立百周年の記念事業を予定しており、大きな節目を迎えようとしています。

平成24年度からは、知性と感性を備え、広く世界で活躍する、将来のリーダーを育成するために、同窓会からの支援を受けて、中高生をアメリカ、イギリス等へ派遣する「グローバルリーダー育成プロジェクト GLP」をスタートさせています。

また、平成25年度からは、文部科学省の「スーパーサイエンスハイスクール事業 SSH」の5年間の指定を受け、魅力ある教育課程を開発し、科学に対する興味を高めながら、科学技術をリードする人材の育成に取り組んでいます。昨年度から第Ⅱ期の指定を受け、さらに5年間、研究を継続しており、国内外での研修や研究発表を行っています。Ⅰ期目では、文部科学大臣表彰受賞や、中間評価で全国トップクラスの高い評価を得ています。昨年度は研究成果が全国放送で2度にわたり紹介されました。

この GLP 及び SSH の取組により、これまで7年間で335名の生徒が、何らかの形で海外での研修や発表会に参加しています。さらに、中学では、「無人島サバイバル生活体験」に代表される体験学習で、人間力の育成に取り組むとともに、県の「未来の学校」創造プロジェクト推進事業で、中高全教室に無線LANが整備されており、県内トップの充実した環境のなかで、ICTをフルに活用した探究型授業にも取り組んでいます。

「創造・挑戦・感動」の教育スローガンの下、「宇土中・宇土高ならではの」教育活動を今後も展開し、生徒のもつ、多様な才能を最大限に引き出すきっかけづくりを進めていきます。

さて、入学に当たり、皆さんに、本校教育の指針となる三つの綱領を紹介し、本校生としての心構えを促したいと思っております。

「一(ひとつ) 規律を守り、正義を尚(たつと)ぶべし」

これは、規則や秩序、そしてマナーを守り、人としての道理をわきまえなさいということです。宇土中生、宇土高生としての誇り、気概を持ち、自らを律してください。

「一(ひとつ) 質(しつ)実(じつ)にして、剛健なるべし」

この「質実剛健」は、本校の建学の精神であり、飾り気がなく、誠実で、強く逞しく、心身ともに健康な生徒であってほしいとの願いです。闘志を内に秘め、共に高め合い、何事にも積極的に挑戦してください。

「一(ひとつ) 勤勉にして、従順なるべし」

勤勉で素直であってほしいとの願いです。一心に勉学に励むとともに、先生や先輩からの助言に、素直に耳を傾けることのできる、純粋な心をもってください。

以上が本校の綱領です。これは、本校が誇りとする生徒の姿でもあります。中学、高校のそれぞれの学校生活の指針として、是非心に留めておいてください。

さて、熊本地震から約三年が経過しましたが、皆さんのなかには、いまだ仮設住宅等での生活をしている生徒や心のケアが必要な生徒がいるのではないかと思います。私たちは、そういった生徒に寄り添い、できる限りのサポートにも取り組んでいきます。皆さんには、熊本地震の記憶を忘れることなく、当たり前の生活ができることに感謝しながら、一日一日を大切に、自分の目標をしっかりと定めて、これから始まる新しい学校生活に精一杯取り組んでほしいと思います。

「平成」から「令和」へと時代が変わっていく今、これからの社会を支えていくのは皆さん一人一人です。社会の形成者として、今日から、自らの進路を決定する、中学生にとって重要な六年間、高校生にとって重要な三年間の学校生活が始まります。今、自分には何ができるのか、何をすべきか、考えて行動してください。特に、大学入試改革で、勉強だけではなく、高校時代にどんな活動をしてきたのか、何を学んできたのかなど、活動歴が問われることとなります。

皆さん一人一人が、自分の適性や能力に気づき、自分を磨き、豊かな心と「生きる力」を持った、将来の社会を担う若者として成長してくれることを期待しています。

保護者の皆様、お子様のご入学、誠におめでとうございます。私どもはこれから、長い人生の中で、最も大切な時期のお子様をお預かりすることになります。教育は、学ぶ者の意欲と、教える側の熱意、そして、ご家庭の見守りが一体となったとき、最大の効果があると考えます。私ども教職員一同、皆様のご期待に添うべく、お子様の教育に全力を尽くす所存です。どうぞ本校教育活動の充実のため、ご支援、ご協力をお願い申し上げます。

最後になりましたが、ご来賓の皆様にはご多用の中、ご臨席を賜りましたことに改めて感謝申し上げます。今後とも、本校の更なる発展のために